

「学生たちと手蒔きから始める年越蕎麦」

中野克彦（江戸ソバリエ・No.15064）

蕎麦ってどうやって作るのですか？ 私たちにも出来ますか？

昨年の大みそかの日に、蕎麦打ち教室にきた地元の大学生たちの言葉に、いつもの蕎麦打ちメンバーが素早く反応した、やる気が有れば出来るよ！

大学生たちが即答で教えて下さいとの一言で決まった27年のソバの栽培、毎年栽培している山間の圃場とは別に、民家に近い休耕田を借りて、草刈作業から始まるソバ栽培。

トラクターで耕耘した圃場に船底型の木柵を一畝に四本人力で引き溝を切りソバの種を蒔いていく、播種機や散布機を使わず限りなく手作業に拘った学生たち、炎天下の中この作業が一番大変だったと思います。

種まきから一週間、芽が出てきました、曲りくねったり、畝の間隔にバラつきがあるのもご愛嬌です。1か月程で30～40センチ程に成長し花が付きはじめました。今年は天候に恵まれて学生たちの頑張りも有り、生育が大変に良いので刈取りを早める予定にしたところ、学生たちから学祭でそば打ちが出来たら受けるかも！？

その言葉にまた、メンバー一同が、やれるだけやってみるかの掛け声で、ハエが三～四匹とまった。生育の良いソバから刈り取る事にしたが、学生さんたちは、またまた鎌の扱いに悪戦苦闘する事半日、なんとか圃場の半分程を刈り取ることが出来ました。刈り取ったソバは乾燥機を使わず、ビニールハウスに運びハウス内で吊るして乾燥させ叩いて落ちたソバから、箕と篩を使いごみ取り作業、最終選別からの石臼挽き、どの作業も根気のいる作業ばかりです。

午前中に選別、午後から石臼挽き、夜は公民館を借りて、蕎麦打ちと茹で、盛り付けの練習が連日続き迎えた学祭当日、天候にも恵まれ多くの来場者で賑わい、地元新聞の一面に写真入りで掲載されるほどの盛況ぶりで、今まで携った人々の苦労が報われた二日間だったようです。

そして大みそかの日、蕎麦打ちの上達した彼らと今年の一年を振り返りながら最後の蕎麦打ちを楽しみ、思い出深い年越蕎麦をいただくことになりました。

若い彼らが蕎麦で繋がった人々と大地に種を蒔き、葉を茂らせ、実を実らせるという、多くの時間と貴重な体験を今後の人生の中で活かしてくれることを信じて平成27年は穏やかに暮れていきましたが、最後にまた、この出汁美味い！！出汁ってどうやって作るのですか？ 私たちにも出来ますか？

また、新しい年の新たな課題もいただきました。

【写真】

①草刈作業



②トラクター作業



③溝切り



④種まき



⑤芽が出た！



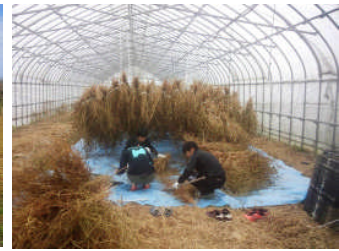
⑥花が咲いた



⑦刈取り



⑧乾燥



⑨選別・石臼挽き



⑩練習&練習



⑪試食



⑫学祭石臼



⑬学祭捏ね



⑭学祭のし



⑮地元新聞



⑯大晦日



⑰大晦日



⑱大晦日



⑲大晦日



⑳大晦日

